

4-(1)-⑱ 教育力向上の取り組みの概要

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>「基礎スキルの到達目標と評価(共通ルーブリック)」の理解／令和元年7月17日、教職員25名</p> <p>参加教員がグループに別れ、講義・実習・フィールドワークなどの授業カテゴリーにおいて現状で設定されている到達目標を確認し、意見を出し合った。実態に即し、かつ芸術とデザインを学ぶ大学として理想的な到達目標はどのようなものなのか様々な意見が交わされた。</p>
第2回 学内研修会	<p>「組織的教育改革のABC ～北陸大学経済経営学部を例に～」／令和元年9月10日、教職員150名</p> <p>山本啓一 北陸大学経済経営学部長を講師に、「改革の理念と方向性の策定(ビジョン・ミッション・バリューの再定義と方向性の打ち出し)」「教育改革と組織開発(初年次教育改革、カリキュラム改革)」等の取り組みについて教職員が学んだ。他大学の事例を知る機会はこれまであまりなく、参加者からも有意義な会であったとの感想が多数あった。</p>
第3回 学内研修会	<p>授業の進め方・教授法の工夫への理解「授業改善アンケート等高評価教員の事例紹介と意見交換」／令和元年10月23日、教員37名</p> <p>授業の進め方・教授法の工夫というテーマで、授業評価アンケートで高評価の山下英一教授、栗野武文准教授、中山ダイスケ学長がそれぞれの工夫点や授業の構成などについて発表し、共有・討議した。「与える」だけではなく、どう「自主的に学ばせる」のかということが共通した指針だった。参加教員それぞれが、授業を組み立てる上で具体的かつ多角的な学びが出来た。</p>
第4回 学内研修会	<p>理想の授業を考える「芸工大生が学ぶ意欲を触発する授業開発」 学生参加型FDさんまるカフェ「いい授業ってどんな授業？」／令和元年12月18日、教員16名、学生24名</p> <p>1年次の授業を学生が構想した。心身の鍛錬、積極性や感性の開発、固定概念の破壊、学科・学年横断の授業、卒業生や4年生が教える授業などのアイデアが出された。また参加教員は、研修を通じて学生が率直に求めるスキルを認識することができた。今後も学生ニーズの把握と、それを踏まえた学生の意欲を高める授業づくりが求められる。</p>

<p>学生FD意見交換会</p>	<p>学生の授業改善に資する意見聴取事業 前期 令和元年7月19日(金) 教員7名、学生12名 後期 令和元年 11月29日(金) 教員7名、学生13名 学内の全学科から学生FD委員を選出し授業に対する意見交換を行った。異なる科目名で同じ内容の授業、テキストや教材を購入させて活用しない、取りたい授業の時間が重複して履修できない、仙台からのバスの関係で1限の授業の履修に間に合わないなど、学生委員たちから忌憚のない貴重な意見を収集することができた。殆どの教員は自身が担当している講義以外の内容や形態の情報を持っておらず、シラバスだけの情報では分らない問題点が浮き彫りになった。</p>
<p>授業改善アンケート</p>	<p>令和元年度「授業改善アンケート」を実施 前期・後期それぞれに、開講した全科目について、受講学生による授業運営に関するアンケートを実施し、学内共有、担当教員へのフィードバック等授業改善と教育力向上にむけた FD 活動への展開などに活用した。</p>
<p>学修成果アンケート</p>	<p>令和元 年 2 月「学修成果アンケート」を実施 本学生の学習への意欲、学生としての意識、予習・復習状況等を把握し、教育内容や学習環境の改善にむけアンケートを実施した。 調査は、本学生専用の学内学修 WEB サイトの回答システムを活用し、全学生の 52%から回答を得て、改善活動に活かしている。</p>
<p>FDネットワークつばさ</p>	<p>東日本に所在する国公立大学で組織・連携する“FDネットワーク“つばさ”に参画し、授業改善、カリキュラム・教育制度改革などについて取り組んでいる。 9 月 山形大学教員研修会「インストラクショナルデザインに基づく授業設計と授業運営」に教員4名が参加し、授業科目の存在意義、成績評価法、授業方法などについて、改めて学んだ。 2 月 学生が取り組んだ授業の、自ら学びの目標を設定し活動した結果について発表し、学生自身の振り返りと学びを深めることにつながり、参加した教職員は他大学の事例をから今後の学習への視座を得る機会となった。</p>
<p>教務事務の改善</p>	<p>8 月 宮城県地区私立大学教務事務研究協議会(16 大学・短大で組織)に参加し、カリキュラム・学生支援・関係法令改正対応などについて、教務事務を担当する職員が毎年定期的に研究、協議を重ねている。</p>

